

# K S K 通信

特定非営利活動法人 甲斐駒清流懇話会

令和4年4月発行

NPO法人甲斐駒清流懇話会

発行責任者 遠山・日向

408-0315 北杜市白州町台ヶ原159-5  
山村広場休憩室内

NPO 法人甲斐駒清流懇話会は平成 11 年 12 月甲斐駒清流懇話会という名称の任意の環境保護団体として設立し、その後平成 21 年 5 月に NPO 法人となり白州町・武川町を中心に広く地域の発展のために、以来 20 年余りの年月を環境保全活動に尽くしてまいりました。北杜市地域は山梨県を襲った昭和 34 年・57 年の台風による土砂災害で大きな被害を受けました。特に白州・武川地域に起きた富士川支流の土砂で河川が氾濫し、地域の街並みはことごとく崩壊し多くの人命、家屋、田畑を失う甚大な被害を受けました。その後人々の生活を取り戻すため河川の改修が進み、溪流環境が保管理され、日々平和な生活が戻りました。然し現代の自然環境は大きく変わり、人々が経験したことのない大雨や強風や土砂崩れ等、日本全国至るところで大きな自然災害に見舞われています。この現状を見据えつつ、私たちの団体は今では平和な生活を営んでいるこの地域に起きた自然災害の歴史や街の伝統的な文化や暮らしを伝承し防災思想の普及を行うことを主たる目的として、美しい溪流環境や災害から暮らしを守る新たな地域づくりを構築するために活動を進めてきました。年間の事業は一般県民を対象に防災フェア&甲斐駒清流ウォークを開催、地元の小学校の児童と父兄を対象に開催する砂防校外授業、道の駅「はくしゅう」の人工の小川を利用して子供たちに溪流に棲む魚を放流してつかみ取りを行う溪流祭り、小武川の源流域に造った人工産卵河川でイワナやヤマメの産卵を促し、自然災害の被災地見学や街づくりの先進地への研修、河川美化活動などの環境活動と環境教育を行政、企業、地域住民や学識経験者とともに協同で開催してきました。以来 23 年余りの活動によって県内外の人々への防災思想の普及と環境教育の振興に寄与してきたと自負しております。この実績により、環境省、山梨県環境財団、河川財団、北杜市などから功績者表彰を受けてきました。しかし長期に渡る活動は法人、個人の会員の力によって成り立ってきましたが会員の高齢化による減少、経費の調達の難しさや近年のコロナ禍による事業推進が難しくなり、中止による影響が活動に大きな困難をもたらし、年間の活動の縮小を考えざるを得なくなりました。そのため会員相互の意見集約を行い、令和 3 年 11 月 4 日に今後の活動を担う会員の負担軽減のため NPO 法人を解散し、任意団体に戻ることを決定いたしました。現在の会員数は個人 32 名、企業・団体 21 社、賛助会員は法人 2 社・個人 30 名の会員はそのまま移行し、民間団体・甲斐駒清流懇話会になります。今後は任意団体として環境保全活動は継続して参りますので、これまで通り皆様の応援、ご協力をお願いいたします。

## ○令和 3 年度の事業報告

例年通りの事業計画を立てましたが、第 5 波、第 6 波のコロナの感染拡大が収まらず、事業の中止が続き、昨年度は防災フェアと砂防校外授業のみ、今年度は開催できたのは砂防校外授業のみでした。

そのため、今回の記事は砂防校外授業の特集といたしました。

### ○砂防校外授業

令和3年11月24日(金) 北杜市武川町三吹 大武川堰堤の復興記念公園「ゆらみず」にて砂防校外授業を開催しました。例年は8月に開催していましたが、コロナ禍の影響を受けて11月に順延となりました。武川小学校・白州小学校の児童41名とその保護者と教諭含め約80名が参加して、3Dの自然災害体験車での疑似体験や建設重機への試乗、土砂災害模型での実験を行い被災者からの体験談を聞き、砂防事務所からの自然災害の現状を説明うけて、自然災害への実態や災害に対する恐怖や身を守ることの大切さを学んでもらいました。親子で学ぶ砂防学習は毎年行われ、両小学校の伝統行事となっています。



武川小・白州小3年生の感想文をいただきました。全ての児童の感想文を載せることはできませんでしたので、代表として無作為に2～3名の児童の感想文を掲載させていただきました。児童の文章は中略もありますが原文のまま載せています。さらに武川小・保坂校長先生の「地域委員会だより」の寄稿文を掲載させていただきました。

### ○武川小3年生(抜粋)

① わたしが一番心に残っているのは三つあります。一つ目は土砂災害体験車です。3Dだったので自分もその中に入ったような感じで、いすがゆれたりしたので本当にそこにいるような感じだったので、とてもわかりやすかったのでいいと思いました。でもマスクをしていたので、いつにおいが出たか分かりませんでした。二つ目は高い所に行けるリフトです。川を見たときに「こんなに静かな川なのに昔は大へんな災害が起きたんだな」と思いました。……

- ② 砂防教室にいて一番心にのこったのは高所作業リフトです。リフトにはじめてのったときには「これで作業するの？これできゅうじょするのか？」と思いました。次に心にのこったのは土砂災害体験車です。はじめてのったとき目の前から石や木が3Dで流れてきたのでびっくりしました。最後に心にのこったのは土砂災害体験装置（ビーダマ）です。初めてあれをやったとき、「すごいちからだな」とと思いました。そしてこうなったときはどうすればいいのか分かりました。
- ③ わたしが一番心にのこったのは土砂さい害体けん車です。理由はもし土砂さい害になったらこまるので、いつどこで土砂さい害になってもいいように、にげるときにもちものをよういしておいたほうがいとおもったし、テレビをみたほうがいとおもいました。2番に心にのこったのはリフトです。理由はこんなにたかくのびるとはおもわなかったので、みんなびっくりしていました。わたしもお母さんもびっくりしました。さいごにたかくあがったときマンションみたいだったのですごびっくりしました。タイヤのコーンを入れるやつをやったときにお母さんが「じょうずだね」といってくれました。私はお母さんにかんしゃしているし、11月12日にやってくれた人にもかんしゃしています。

#### ○白州小学校3年生（抜粋）

- ① 僕はすえきさんの話をきいて、どしゃさいがいがきたときにたくさんの人命がなくなったことがよくわかりました。まず、はじめに白州、む川だけしか、さほうきょうしつをしていないとしたときはびっくりしました。はさむやつは楽しくできました。そのつぎに3Dはもし、さいがいやどせきりゅうがきたときにじゅんぴすることやこわいけいけんができました。さいごに、たかだいはかがよくみえました。ぼくはこの3つの車が心にのこりました。そしてさほうきょうしつはたくさんの人いのちやいえをなくした人のことをまもることをみんなにわかりやすくたのしく、けいけんできたのでとてもよかったです。……みなさん、一どさほうきょうしつがちゅうしになったのにやらせてくれてほんとうにありがとうございます。
- ② 大きなたいふうがあって、大きなさいがいがあって、砂防きょうしつがあったんだなどはじめてでした。3Dのたいけんはものすごく、はくりょくがあってすごくこわかったです。よういするものや、はやめにひなんすることがよくしれました。ダムのもけいはダムがあるのとないので、さがすごかったです。ダムがないのだと家や車がいっきにながれていったけど、ダムがあったらまったくばされなかったです。わたしはこう思いました。「ダムはあったほうがいいんだな」と思いました。体験したことはわすれません。ありがとうございます。
- ③ ぼくは昭和34年8月16日に大きな台風があったなんてはじめて知りました。5班はさいしょにショベルカーに乗りました。ショベルカーは多くの土をほりだしていました。ショベルカーのあとは人を高い所に乗せる車に乗りました。高い所は楽しかったし、けしきがよかったし、風が当たってとても気持ちよかったです。この車のあとは、もけいで土砂さいがいの体けんをしました。さいがいが起きたらどのようなことが起きるかを知りました。この体けんのあとはタイヤをはさむ車に乗りまし

た。・・・さいごに3Dメガネを使う車に乗りました。とてもすごかったです。一番楽しくてびっくりになりました。そして砂防きょうしつを開いてくださりありがとうございました。

### ○危機意識をつなげる砂防郊外教室

武川小学校 校長 保坂 一

令和3年11月12日(金)砂防校外教室が甲斐駒清流懇話会主催の元、大武川河川敷の復興記念公園「ゆらみず」で行われました。武川小10名、白州小23名の3年生児童と保護者、教諭の7名ほどが招待されるなか、昭和34年台風水害における災害学習としての合同学習会が行われました。当日は絶好の日和の中、大きな仮設テントや重機が何台も並び、子供たちの気分も高まりを見せていました。内容は砂防に関する講演と体験学習が主であり、北杜市・富士川砂防事務所各種団体の協賛を受け大々的に行われました。今回の学習会は昭和34年8月の台風7号による水害を風化させない取り組みとして現在も続いています。その大水害については山崩れによる多量の土砂と流木を交えた濁水の氾濫でした。(中略)

それら歴史を受けて官民一体となって活動している「甲斐駒清流懇話会」が平成22年5月にNPO法人となり、子供たちの防災意識向上を図るために砂防校外学習に取り組んできました。そこで当日の砂防学習においても子供たちの印象的な活動を紹介します。

1つ目は3D映像を活用した土砂災害体験車です。車中に映し出された映像は地域が豪雨に見舞われる中、家族の素早い判断で災害から逃れられたという内容でした。映像は3D眼鏡を使って見るために、立体的であるとともに座っている椅子が災害状況に連動して動くので臨場感たっぷりのビデオでした。子どもたちはビデオの主人公に自分を置き換えながら、災害の怖さと自分の命を優先した素早い避難行動を取ることの必要性を改めて学ぶことが出来ました。

2つ目は20m近く上昇する高所作業車に親子で乗り込み、武川の美しい自然や大武川に設置された砂防への取り組みが自分の目でしっかり確かめられたことでした。遠くに輝く甲斐駒が岳、北の七里岩大地、武川の里が大きな河岸段丘に沿って街並みが続いているなか、街の中心を流れる大武川に50基もの堰堤が規則正しく配置され、安全を確保してくれている様子が確認出来ました。砂防事務所の職員の説明によるとこの堰堤が災害時に於いて水流や雑木、岩などの勢いを弱め、穏やかに流れる工夫であると話してくれました。それゆえ昭和34年時の川の氾濫レベルは10分の1くらいに収めることが出来ることでした。(中略)

災害を忘れないことは私たちの地域の自然を守るためにも必要不可欠です。土砂災害に対する「心構え」と「知識」を備えた子供たちを育成することにより、学校・家庭・地域がさらに連携を深める機会として、この活動を継続していくことの大切さを改めて感じました。

### ○河川美化活動

例年、大武川の堤防や復興記念公園の周辺の草刈りを春と秋に行います。令和3年度は5月、11月に行いました。復興公園の周辺は毎年手入れをしているので桜の並木も順調に育ち、春は桜が咲いて河川公園らしくなり、災害の復興の記念モニュメントの周辺でキャンプや魚釣りをする人などの利用者も増

えてきました。会員の努力で植樹や休憩用の木材などを設置して環境も整えてありますので、近年地域の人々が安心して川遊びに利用しているようです。

#### ○毎年開催している事業の振り返り

令和2年度、3年度とコロナ禍の蔓延防止措置の影響で中止になってしまいましたが、例年ですと下記のようなイベントが開催されています。これまでの様子を写真で紹介します。

#### ①6月 防災フェア&甲斐駒清流ウォーク



#### ②8月・9月 溪流祭り



#### ③人工産卵河川のメンテナンス



#### ④被災地見学会・研修会（日光・駒ヶ根）



④被災地見学会・研修会（ハッ場ダム）



⑤草刈り



○ NPO 法人甲斐駒清流懇話会の活動に関する表彰の実績

- 平成24年 1月 若宮賞 山梨環境財団
- 平成25年 6月 環境賞 山梨県
- 平成25年10月 功績者表彰 北杜市
- 平成26年 6月 日本水大賞審査員特別賞 日本水大賞委員会
- 平成26年11月 特別表彰 北杜市
- 平成29年 8月 大臣表彰 国土交通省
- 平成29年12月 功績者表彰 北杜市
- 令和元年 6月 環境大臣賞 環境省
- 令和元年11月 功績者表彰 北杜市

○会員の募集をしています。

会の活動の趣旨に賛同の方は是非、活動を応援してください。正会員、賛助会員いずれも大歓迎します。正会員は事業の活動・運営に協力していただき、賛助会員は当会が催すイベントにすべて参加でき、当会が発行する情報紙をお送りします。入会は常時でき、退会も自由です。会費は下記のようになっています。

入会時 1,000円 正会員の年会費：個人 3,000円・法人10,000円

賛助会員入会金はありません。個人 1口1,000円～3,000円・法人10,000円

入会申込先：北杜市白州町台ヶ原159-5 地域活性化センター山村広場休憩室内  
甲斐駒清流懇話会事務局あて

※申し込みされた方には後日振込用紙を送らせていただきます。